

たてはく

令和7年度後期特別企画展

英国から立山へ —『日本旅行案内』にみる立山—

会期：令和7年9月13日（土）～11月3日（月・祝）

明治14年（1881）、駐日イギリス公使館の書記官だったアーネスト・サトウとA・G・S・ホースは、自身らが旅した日本の都市や山岳地域の情報をまとめ、外国人向けの日本旅行ガイドブック『中部・北部日本旅行案内』を出版しました。3版以降は編集者が代わり『日本旅行案内』と名前を変え、9版（1913年）まで刊行されたこのガイドブックを片手に、多くの外国人が日本各地を旅しました。

立山は「ルート34 越中と飛騨」の中で紹介され、サトウらイギリス人たちが立山を訪れた体験をもとに、自然や順路、宿泊先、見どころが記載されています。

なぜイギリス人たちは日本の山岳地帯を訪れるようになったのでしょうか？立山に登って何を感じたのでしょうか？ガイドブックの中で立山はどのように紹介されているのでしょうか？本展では、これらを紐解きながら、明治初期に、イギリス人たちが見た立山を紹介します。（河野史明）

イベント情報

●展示解説会

9月13日（土）、9月27日（土）、10月11日（土）、10月25日（土）14:00～15:00
11月2日（日）、11月3日（月・祝）13:00～14:00

●展示関連講座

「解説会エピソード0～企画展ができるまで～」

10月11日（土）13:30～13:50

展示解説会前に、展示担当者が教算坊にて「英国から立山へ」ができあがるまでを、裏話を交えて紹介します。

●観覧者へ3つのスペシャル特典

- ①9月13日は、展示館来館者先着30名様（ご希望される方）に「後期特別企画展ポスター」をプレゼント！
- ②9月27日は、まんだら遊苑開苑30周年記念として、企画展観覧者先着30名様（ご希望される方）に「香りまんだら」をプレゼント！
- ③10月11日は、まんだら遊苑開苑30周年記念として、企画展観覧者先着30名様（ご希望される方）に「六角鬼文デザイン缶バッジ」をプレゼント！



開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料
休館日 月曜日（9/15、10/13、11/3は開館）、9/16（火）、9/24（水）、10/14（火）

○展示替えのため9月12日（金）は全館臨時休館となります。

目次

令和7年度後期特別企画展

英国から立山へ —『日本旅行案内』にみる立山—	1
まんだら遊苑開苑30周年記念イベントを終えて	2
前期特別企画展 立山を描く—山に向けられたまなざし—を終えて	2
ボランティア活動報告 各種イベントでボランティア活躍中！	2
立博雑学	
第18回 富山県内小・中・高等学校の校歌の中の「立山」についての研究余滴（新川地区編）	3
芦峯寺宿坊の常夜灯が寄贈されました	3
「博物館実習」を実施	3
夏の修行に挑戦！～今年もたてはく探検隊を開催しました～	4
ミュージアムdeナイトin芦峯寺を開催して “地獄博物館” へ大変身！	4
秋の催し案内 ちょっと昔の映像上映会&もみじを愛でる会を開催	4
編集後記	4





まんだら遊苑開苑30周年記念イベントを終えて

館長 高野 靖彦

まんだら遊苑が平成7年7月7日に開苑してから今年で30周年となることを記念して、令和7年7月6日にイベントを開催しました。

前半の記念講演会では、神奈川大学建築学部教授の六角美瑠氏が「まんだら遊苑のこれまでとこれから」と題し、設計者・六角鬼丈氏のまんだら遊苑のコンセプトに関わる資料を紹介され、その内容を建築家の視点から読み解きながら、まんだら遊苑の特性とその価値を解説していただきました。その後、パネリストとして米原寛氏、吉武利文氏、高谷光氏、佐伯照代氏が加わり、開苑までの経緯、香り創造のエピソード、冬季メンテナンスの苦勞、地元での食の取組みなどについて貴重な話をしていただきました。

後半は、六角氏、吉武氏、高谷氏がコンダクターとなり、3班に分かれてのまんだら遊苑スペシャルツアーを実施しました。天候に恵まれ、普段では聞けないディープな解説も満載で、大盛況のうちに終了しました。ご参加・ご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、これからも多くの方々のまんだら遊苑へのご来苑をお待ちしております。(記念講演会100人、スペシャルツアー100人)



まんだら遊苑開苑30周年記念講演会



まんだら遊苑スペシャルツアー (六角美瑠氏)

前期特別企画展

立山を描く—山に向けられたまなざし—を終えて

本展では、江戸時代から今日に至る、立山が描かれた絵画を中心とする40点の作品・資料を4つのコーナーを設けて展示・紹介しました。これにより、作家の目を通して見た様々な立山の姿をご覧いただけたことと思います。

「Ⅰ. むかしはどうだっただろう」では、江戸時代の版本や錦絵などを紹介し、「Ⅱ. 近代の夜明けとともに」では、明治時代の近代化の影響を受けた作品や書籍を紹介しました。「Ⅲ. 登った、描いた」では、山岳画家、武井真澄のスケッチや、初公開となる、奥田元宋の剣岳のスケッチなどを、「Ⅳ. 様々な表現で」では、芦峯寺をはじめ、立山町に題材を求めた絵画などや、現代的な表現を紹介しました。なお、かつて行っていた内覧会を行い、また、富山県美術館、富山県水墨美術館、高志の国文学館との四館連携事業の一環として開催しました。

最後に、本展開催にあたりご出品いただきました所蔵者並びにご協力いただきました関係の方々に感謝申し上げます。観覧者数3,158人。(鈴木博喬)



会場風景



内覧会の様子

ボランティア 活動報告

各種イベントでボランティア活躍中！

- ボランティア有志が、7月6日(日)に開催した「まんだら遊苑開苑30周年記念イベント」や、7月20日(日)開催の「たてはく探検隊」、8月9日(土)・10日(日)開催の「ミュージアムdeナイトin芦峯寺」において、準備や当日運営などで大活躍しました。
- 第2回教養講座「立山参詣道及び宿場を歩く—芦峯寺集落編—」、第3回教養講座「立山を描く—山に向けられたまなざし—」解説会を実施しました。今後も楽しく立山の自然や歴史を学べる講座を開催していきます。
- ボランティアは随時募集しておりますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

(河野史明)





学芸課発

立 博 雑 学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第18回 富山県内小・中・高等学校の校歌の中の「立山」についての研究余滴(新川地区編)

標記について研究した際、いくつか気になる事があった。今回は新川地区(朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、立山町、上市町)について考察していきたい。

新川地区では、校歌に「立山」の歌詞がある割合は約63%と富山地区に次ぐ高い数字であった。しかし、明確な分割線が存在した。それは黒部川である。入善町と朝日町の学校の校歌に「立山」の歌詞は皆無なのである。この理由は地理的条件にあらう。何より両町から立山本峰がほぼ見えないのだ。代わりに朝日岳や白馬岳、僧ヶ岳といった間近に見える個別の山が歌詞に入っていた。

これが黒部川を越えると一変する。入善町に近い生地港からは立山本峰が見え、道の駅KOKOくろべからも小さいながら明確に見える。これに伴い校歌の歌詞に「立山」が増加する。特に、はっきりときれいに見える始める地点は、県立新川みどり野高校付近である。この近くには立山開山伝説の中心人物の佐伯有頼ゆかりの「布施の館」があったと伝わる「有頼柳」がある。また、立山神社も近所にあり、立山にゆかりの場所である。さらに、有頼の出家後の慈興上人ゆかりの大徳寺も近くにある。これを偶然の一致とするには出来過ぎであらう。

しかし、同じく立山本峰がほとんど見えない上市町では少し異なっている。確かに立山本峰は見えないが、剣岳と大日岳がきれいに見えることから立山連峰と大きく捉え、「立山」の歌詞が使われていた。特に、県立上市高校の「大立山」の歌詞がその意味を表しているであらう。

最後に、学校の統合が進み、新しい校歌が制作される

時、「立山」等の地理的な環境をあえて歌詞に入れない傾向になっている。新川地区でも、近所に立山開山伝説ゆかりの「有頼柳」がある新川みどり野高校と最寄りの黒部市立たかせ小学校の校歌には「立山」の歌詞がない。前者は、新川女子高校にかわり設置され、後者は黒部市立田家小学校と東布施小学校が統合して開校した。旧新川女子高校と旧田家小学校の校歌の歌詞には「立山」がある。ただ、立山本峰が見えない旧東布施小学校の校歌にはない。他方、立山神社の横で、有頼柳にも近い旧黒部市立鷹施中学校と、旧鷹施中学校と旧黒部市立高志野中学校が統合した清明中学校の校歌には「立山」の歌詞が残っている。

(森山義和)



有頼柳



立山神社

芦峠寺宿坊の常夜灯が寄贈されました

6月、教算坊入り口横に江戸時代の石灯籠、高さ約160cm、幅約60cm、奥行約60cmの常夜灯が設置されました。昨年、寄贈を受け、能登半島地震で壊れていた箇所を補修し、復元しました。もとは、明治期まで立山博物館展示館の敷地にあたる場所にあった芦峠寺宿坊家・金泉坊にあった常夜灯で、「常夜燈」「元治二年」「能登國珠洲郡」「小浦村四郎左衛門」などと陰刻されています。聞き取り調査でわかった来歴のほかに製作者、制作時期、使用方法など、資料情報が豊富であり、当館初の種類の収蔵資料となります。立山では江戸時代以前の石灯籠は残存数が少なく、貴重であり、今後の研究に生かしていきたいと思います。(森山義和)



「博物館実習」を実施

今年は8月19日(火)~22日(金)と26日(火)~29日(金)の計8日間実施し、2名の大学生が受講しました。

●佐伯美空さん

今回の実習を通して、博物館が担う役割の広さを改めて実感することができました。立山曼荼羅の絵解き解説の方法を学んだことや、フィールドワークを通じて地域の文化



に触れた経験は、普段の学びだけでは得られない貴重なものでした。

短い期間ではありましたが、多くのことを吸収でき、とても充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

●吉尾かなうさん

博物館実習を通して、立山博物館で働いていらっしゃる方々が立山博物館をよりよくしたいという想いで一人一人活動されているということを実感しました。フィールドワークや立山曼荼羅の絵解き解説などを通して、大学で学んできた以上にたくさんのことを得たり、吸収したりすることができた実習期間でした。

立山博物館に関わる方々、学芸課の方々、二週間お世話になりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。





夏の修行に挑戦!

～今年もたてはく探検隊を開催しました～

今年も子供向けイベント「たてはく探検隊」を7月20日に参加者50名(子供25名、保護者25名)で開催しました。立山博物館の各施設を巡り、最後の修行として遙望館にて閻魔様の〇×クイズを行いました。例年に続き猛暑日となりましたが、こまめな水分補給の呼びかけや万全な熱中症対策により、体調を崩す参加者もなく、無事に活動を終えることができました。

参加者からは、「今回の活動を通して、より深く立山の歴史を知りたくなった」といった声も寄せられ、立山への関心を高める機会となりました。(上利理峰)



ミュージアムdeナイトin芦峯寺を開催して

“地獄博物館”へ大変身!

夜の恒例行事「地獄博物館」を今年は2日間(8/9・10)開催しました。

展示館は赤くライトアップして地獄空間を演出し、教算坊庭園は、ライトキューブで幻想的な雰囲気を作り出しました。

博物館職員が閻魔大王や大天狗、鬼などに扮し、非日常の博物館を演出し、展示館・教算坊・山岳集古未来館の3つの施設を回る「地獄巡りスタンプラリー」、閻魔大王と大天狗による「クイズ対決!」、学芸員による「立山曼荼羅絵解き解説き～ミュージアムdeナイト特別バージョン～」を盛り上げました。

今年も「怖いこと」「楽しいこと」がてんこ盛りの2日間になりました。(来館者数: 展示館294名、教算坊446名、山岳集古未来館308名、いずれも2日間合計ののべ人数) (森山義和)



秋の催し案内

もみじを愛でる会& ちよっと昔の映像上映会を開催

秋の恒例になりました、「もみじを愛でる会」を旧宿坊・教算坊にて開催します。

普段はなかなか見る機会のない「立山曼荼羅」の絵解き解説を、申込不要で参加ができます。また、立山や芦峯寺の古い映像の上映なども実施します。

11月3日(月・祝)には、「ちよっと昔の映像上映会」と題して、岡田知己前館長をお招きし、立山の貴重な映像を観ながら解説頂きます。

歴史を感じる空間で、懐かしい映像などを観ながら秋のひとつときをどうぞお楽しみください。(毛利成宏)

○ちよっと昔の映像上映会

講師: 岡田 知己氏(富山県[立山博物館]前館長)
使用映像: 「秩父宮殿下立山御登山」1924年(国立映画アーカイブ) 他

開催日: 11月3日(月・祝)

時間: 14時～14時40分

場所: 教算坊 ※申込不要、参加無料

○もみじを愛でる会

開催日: 11月1日(土)～3日(月・祝)

絵解き時間: 1日(土)・3日(月・祝) 11時～11時40分

2日(日) 11時～11時40分、14時～14時40分

映像上映: 1日(土) 14時～、2日(日) 12時～

場所: 教算坊

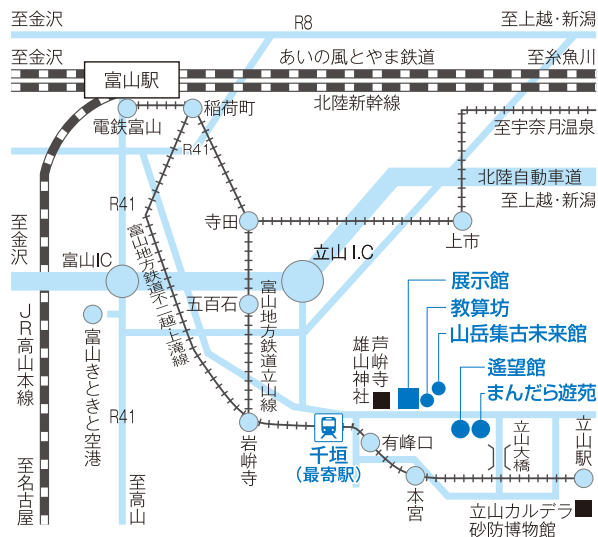
※申込不要、
参加無料



編集後記

忙しかった夏が終わり、ほっと一息。…したいところですが、今度は秋のイベントも目白押し(笑) 秋の特別企画展のテーマは、「立山に訪れたイギリス人たち」です。ぜひお越しくださいね(H)。

案内図



●最寄り駅

富山地方鉄道立山線「千垣」駅下車徒歩約30分(約2km)
※日曜・祝日・8/14～16・12/29
～1/3を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で

JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分



立山博物館のHPは
こちらから

人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144



でも情報発信中

立山博物館

